

3 モデルを用いた授業デザイン

まず、学習者が世界の諸地域で農業形態について学習する際に、その地域の地球上における位置や、その地域にみられる地形や風向きから気候を考えさせることで、学習者が帰納的に農業形態を決定づける気候要因について認識を深める。この段階を「地域の特色を示す地理的事象を見いだす段階」とする。本研究では、「世界の諸地域①アジア」の単元において構想を行う。

次に、ここで身につけた農業形態を捉える地理的事象を他の地域での農業形態と比較し、関連付けを行いより学習モデルを確かなものにしていく段階を「中核とした地理的事象を他の事象と関連付けて追及する段階」とする。本研究では、「世界の諸地域②ヨーロッパ」「世界の諸地域③アフリカ」の単元において構想を行う。

さらに、これまで世界の諸地域の農業形態を学ぶ中で、確かなものにしてきた農業形態に関する学習モデルを用い、演繹的に新たな地域での学習の際に農業形態を予想させ表現させる段階を「追求の過程や結果を表現する段階」とする。本研究では、「世界の諸地域④北アメリカ」の単元において構想を行う。

これらの授業を通して動態地誌的に世界の農業形態を捉える構想モデルを用いて学習を行うことにより、農業形態を捉える基礎的な見方・考え方を養い「知識重視」ではない世界の諸地域の学習が行えることできると考える。

4 ICT 機器の活用方法

降水量や風向き、地形の様子などのデータを可視化し組み合わせて示すことで、学習者は地球規模および局所的な地理的事象のイメージをつかむことができ易くなると考える。本研究では風向きや海流の流れを「earth.nullschool.net⁶⁾」で、地形の様子を「Google Earth⁷⁾」で確認する学習を取り入れる。地図上に気流や海流をアニメーションで表示することで、学習者は目に見えない地球規模でダイナミックに変化する気流や海流の動き、また、局地的な地形の特徴を直感的に理解できるようになると考える。

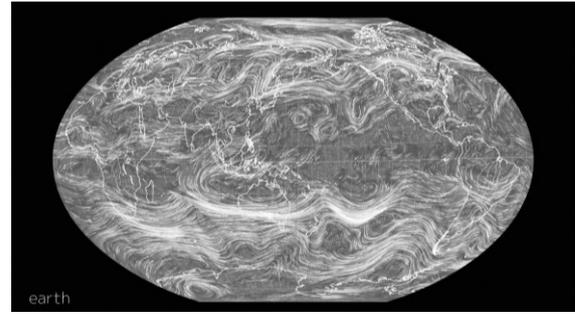


図2 世界の風向きの様子「earth.nullschool.net」より

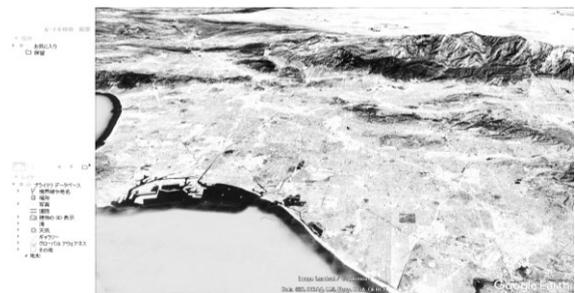


図3 ロサンゼルス周辺の地形の様子「Google Earth(www.google.com/intl/ja/earth/)」より

5 今後の課題

本研究では、ICT 機器活用を活用した動態地誌的な地理の授業のデザイン方法について検討を行った。今後は、今回扱えなかった地域についても本モデルを用いた授業デザインを通してその有用性について検討し、実際の授業での効果の検討を行う予定である。

参考文献

- 1) 中條暁仁, 岩本知之, 早馬忠広(2014) 中学校社会科における動態地誌的学習の特質と課題- 「日本の諸地域」を中心として-. 静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇), 45:71-81
- 2) 中條暁仁ら(2014) 同上
- 3) 文部科学省: 『中学校学習指導要領解説社会編』, pp. 17, 2017
- 4) 中條暁仁ら(2014) 同上
- 5) 清田直紀(2013) 「日本の諸地域」における動態地誌的な学習による授業の研究- 「確かな学力」を育む授業の工夫-. 神奈川県立総合教育センター- 長期研究員研究報告, 11:7-12
- 6) <https://earth.nullschool.net/jp/about.html>
- 7) Google Earth www.google.com/intl/ja/earth/